

地方国立大学における入学・卒業時の地域間移動パターンと大学進学理由

林 寛子

1 はじめに

近年、大学進学時の若者の移動について、地域創生の視点から改善の政策がすすめられている。2014年に施行された「まち・ひと・しごと創生法」に基づいて閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、基本目標②「地方への新しいひとの流れをつくる」の政策の一つとして「ウ. 地方大学等の活性化」を掲げている。そして、「地方の若い世代が大学等の入学時と卒業時に東京圏へ流出している。その要因には、地方に魅力ある雇用が少ないことのほか、地域ニーズに対応した高等教育機関の機能が地方では十分とはいえないことが挙げられる。地方大学や高等専門学校、専修学校等において、地域とのつながりを深め、地域産業を担う人材養成等地方課題の解決に貢献する取組を促進する必要がある。」と示し、「地方における自県大学進学者の割合を平均で 36%まで高める（2013年度全国平均 32.9%）」（まち・ひと・しごと創生総合戦略: 36-37）と掲げている。

「まち・ひと・しごと創生法」が制定されてから 10 年が経過した 2024 年に、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局・内閣府地方創生推進事務局は、これまでの取組による成果や課題、今後求められる取組の方向性を「地方創生 10 年の取組と今後の推進方向」に取りまとめている。この文書には、「各自治体においては、地域の課題を自ら把握し、その解決に向けて行政と民間、住民等が連携した取組が行われ、暮らしやすさの向上に加え、地域によっては人口増加や、2013 年当時の人口推計の値を上回る場所もあり、この中には地方創生の取組の成果と言えるものが一定数あると評価できる。」としつつも「国全体で見たときに人口減少や東京圏への一極集中等の大きな流れを変えるには至っておらず、地方が厳しい状況にあることを重く受け止める必要がある」と指摘している（地方創生 10 年の取組と今後の推進方向: 1）。

各大学は、地元の高校生等の大学への進学状況を自県占有率として公表しているが、地域創生の施策の中で行うようになったわけではない。山口大学もそれ以前から自県占有率を算出して公表してきた。平成 20（2008）年度入学者の自県占有率は 24%であり、令和 5（2024）年度入学者は 26%である。多少の増減はあるが、ほぼ横ばいで推移してきた（山口大学アドミッションセンター 2008-2024）。山口大学は地元国立大学として山口県の高校には重点を置いて大学入試広報に努めているが、約 15 年の間に高校生の進学動向に大きな変化はない。この間、山口大学の地方創生にかかる事業が進められたり、コロナ禍で全国的に移動が制限されたり、またそれに伴って地元志向が強まっているという指摘もあるが、自県占有率に大きな変化はない。

一方、山口県は、課題である人口減少の克服と地方創生の実現に向けて、「山口県人口

ビジョン」及び「山口県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、取組の重点的な実施を図っている。地域創生の取組を行っているにもかかわらず、現状は、若者を中心に進学や就職による県外流出が顕著である（山口県 2024）。

大学進学時の若者の移動は、東京一極集中が指摘される一方で、若者の「地元志向」の強まりも指摘されている。いずれにしても、高校生は、本人が望むとおりに大学に進学できるわけではない。大学入学者選抜試験が実施されるため、希望どおりになるとは限らない。また、本人の興味関心の問題だけでなく、家庭の経済的事情、居住地域、性別等、本人が抱えるさまざまな背景の中で機会の格差が生じ、移動する若者と移動しない若者が存在することになる。

大学が地方創生のための役割を果たすためには、大学入試制度の在り方を「選抜」重視から「育成」重視への入試制度設計の検討が必要になっている（宮下ほか 2021）という指摘がある。従来型の入試制度を維持するにしても、地域創生のためには、地方大学は機会の格差の是正に努めながら魅力ある大学であり、その魅力を広く伝えることが必要になる。

そこで、本稿では、地方国立大学入学者、具体的には山口大学の入学者を対象として、入学者の地域間移動パターンを把握し、それが大学進路選択の理由とどのように関連しているのかを明らかにすることで、入学者の受入れの制度的見直しや広報の在り方に資することを目的とする。

2 若者の地域間移動と本研究の目的

2.1 大学進学時の地域間移動に関する先行研究

日本において、大学が大都市圏、特に東京圏に集中していることは周知の事実である。また、大学進学に伴う転入超過率は大都市圏、特に東京、京都で高いことが確認できる（清水・坂東 2013; 文部科学省 2021）。この大学進学時の転入超過率や自県占有率は「学校基本調査」のデータを分析することにより、各都道府県の大学進学時の地域間移動パターンが論じられている（リクルート進学総研 2004; 田澤 2023 等）。

地域移動の研究は、人口学、社会学、経済学、地理学等で広く行われている。その中で、大学進学時の地域間移動については、格差が主な問題意識としてある。生まれ育った地域、性別、家庭環境等は移動の有無に影響し、教育機会、職業機会を左右することが先行研究で明らかにされてきた。例えば、清水・坂東（2013）は、移動数の推移を男女別にみて、男性ではいずれの移動も 1990 年代半ば以降減少ないし横ばい傾向だが、女性では上昇ないし横ばいのケースが多く、大都市圏への大学進学者の集中や長距離の進学移動において、女性の役割が高まっているという性別の差を確認している（清水・坂東 2013）。また、李・杉浦（2012）は、2008 年及び 2010 年に実施した東北出身者と東京圏在住者と東京圏出身者で東京圏に在住する者との比較調査から、「個人の経済的な利益が学歴によって異なっていることと、大卒においては移動による経済的な利益が大きい」（李・杉浦 2012: 71）ことを明らかにし、「このような経済的な利益の存在が、地域間の移動を導き、

戦後から今日に至るまで地方の若者たちは東京を目指して移動を繰り返している」（李・杉浦 2012: 71）と指摘している。さらに、李・杉浦（2012）は、父親が専門・技術系・管理的職業の「地方で「恵まれた」家庭の子弟が進学時に移動し、高い所得を得ている」こと、及び「就職時の移動に関しては、家計の経済的な環境とは無関係に移動を選択している」（李・杉浦 2012: 83）ことを明らかにしている。

大学進学時の移動については、大学入試研究においても学生獲得の観点から各大学が自県占有率、それ以外の県からの入学者動向を把握するように常に注目してはいるが、地域移動の観点による研究の蓄積は少なく、入試研究の専門雑誌『大学入試研究ジャーナル』では内田・鈴木（2012, 2013）だけである。内田・鈴木（2013）は、平成9年から22年の高校新卒のセンター試験志願者の大学の出願状況を(1)国公立大学への自県出願者、(2)国公立大学への他県出願者、(3)私立大学単独の出願者、(4)センター試験成績では大学に出願しなかった者、(5)センター試験を志願したが受験しなかった者に区分し、都道府県ごとに就願状況の類型化を行い、地域ごとに就願パターンの傾向があることを明らかにしている。山口県は、他県の国公立大学出願者が最大多数であり、近年、その他県の国公立の出願者が減少傾向を示す「Type 2: 他県国公立減少型」（内田・鈴木 2013: 89）と区分されている。

さらに、内田・鈴木は、かつてリーマン・ショックの影響で地元国立大学への回帰現象が生じたかのような報道に触れ、「ニュースでは、その年に起こった目立った事象と、受験行動を結びつけた報道を行ないがちであるが、実際の大学の就願行動は短期的にはそれほど変動しておらず、むしろ長期的トレンドの影響の方が大きい」とし、「年次的な動向を注視しつつ、地域の特性にも留意しながら、大学進学の意味決定の過程の検証を続けていくことが必要である。」（内田・鈴木 2013: 93）と指摘している。

内田・鈴木 の指摘のとおり、コロナ禍において山口大学の自県進学率に目立った変動がなかったことから考えると同様のことが言えるかもしれないが、データを確認して結論付けるまでは注視はしておく必要があるだろう。その上で、若者の移動にともなう格差や山口県の地域の特性に留意しながら、若者の移動状況及び大学進学の意味決定の過程を把握することは、若者の地元高等教育機関に期待することを明らかにすることができ、地域創生のための大学入試の在り方の検討に繋がると考える。

2.2 山口県の若者の地域間移動

まず、先行研究等から明らかになっている山口県の若者の移動の特性を整理しておく。

リクルート進学総研は、文部科学省「学校基本調査」を基に、全国の18歳人口や進学率、地元残留率の推移を経年でまとめている。その「マーケットレポート 2023」によると、大学入学者の地元残留率は、2014年の43.2%から2023年は44.8%と1.6ポイント上昇している。大学入学者地元残留率が高いのは、1位愛知県（72.1%）、2位東京都（68.3%）、3位北海道（65.6%）で、残留率が低いのは、1位奈良県（15.0%）、2位鳥取県（15.1%）、

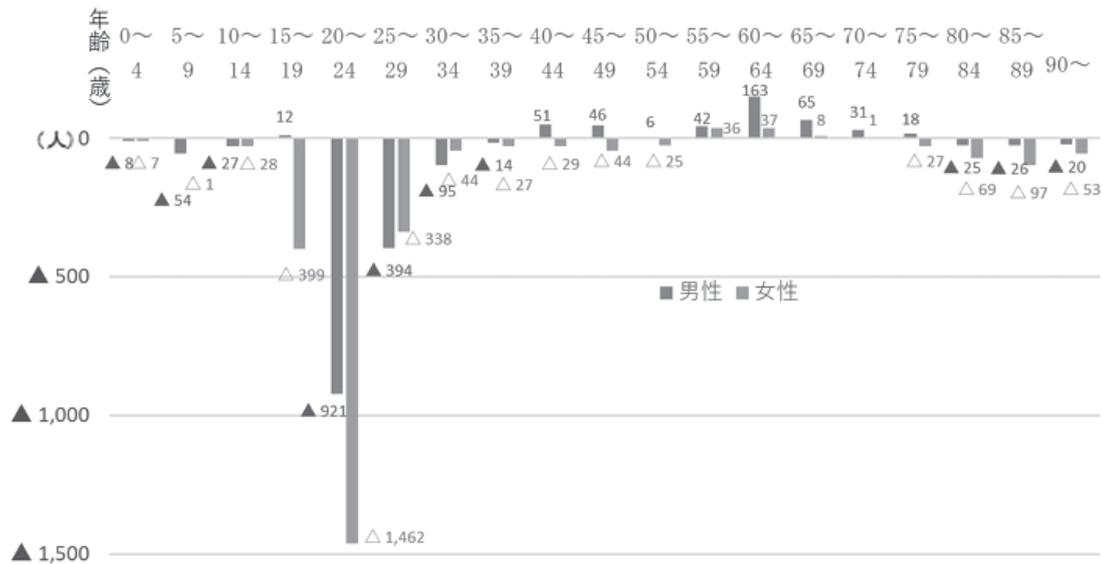


図1 山口県の年齢別人口の社会増減

出所：第3期山口県まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】

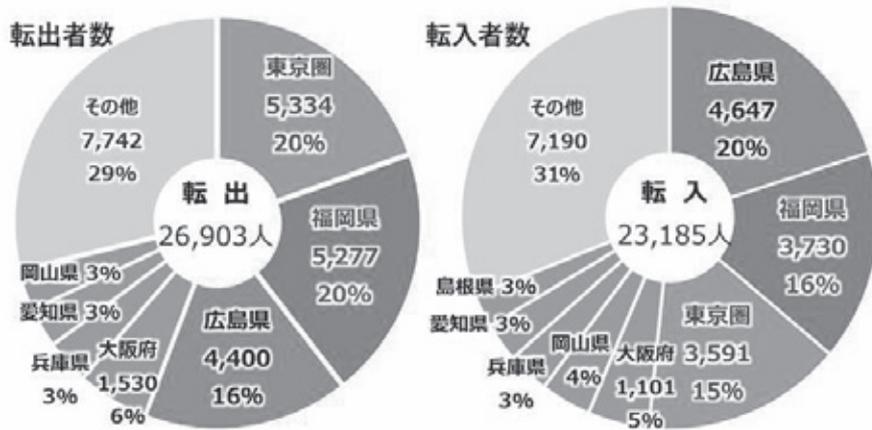


図2 山口県の人口移動の現状

出所：第3期山口県まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】

3位佐賀県(15.4%)である。山口県は23.8%で地元残留率が低い県に区分されている。また、山口県は、18歳人口減少率が18.2%(全国平均11.6%)と全国平均よりも高く、「人口減少に加え若者が地元にも残留しないため、地元募集だけでは厳しいセグメント」(リクルート進学総研2024:27)と指摘されている。

具体的に、山口県の年齢別人口の社会増減をしてみる(図1)。まず、若者の移動が多く、進学や就職時に県外流出をしている。また、男性に比べ女性の流出が大きい。山口県の人口移動の地域(図2)を見ると、転出者、転入者ともに東京圏、広島県、福岡県で半数を占める。

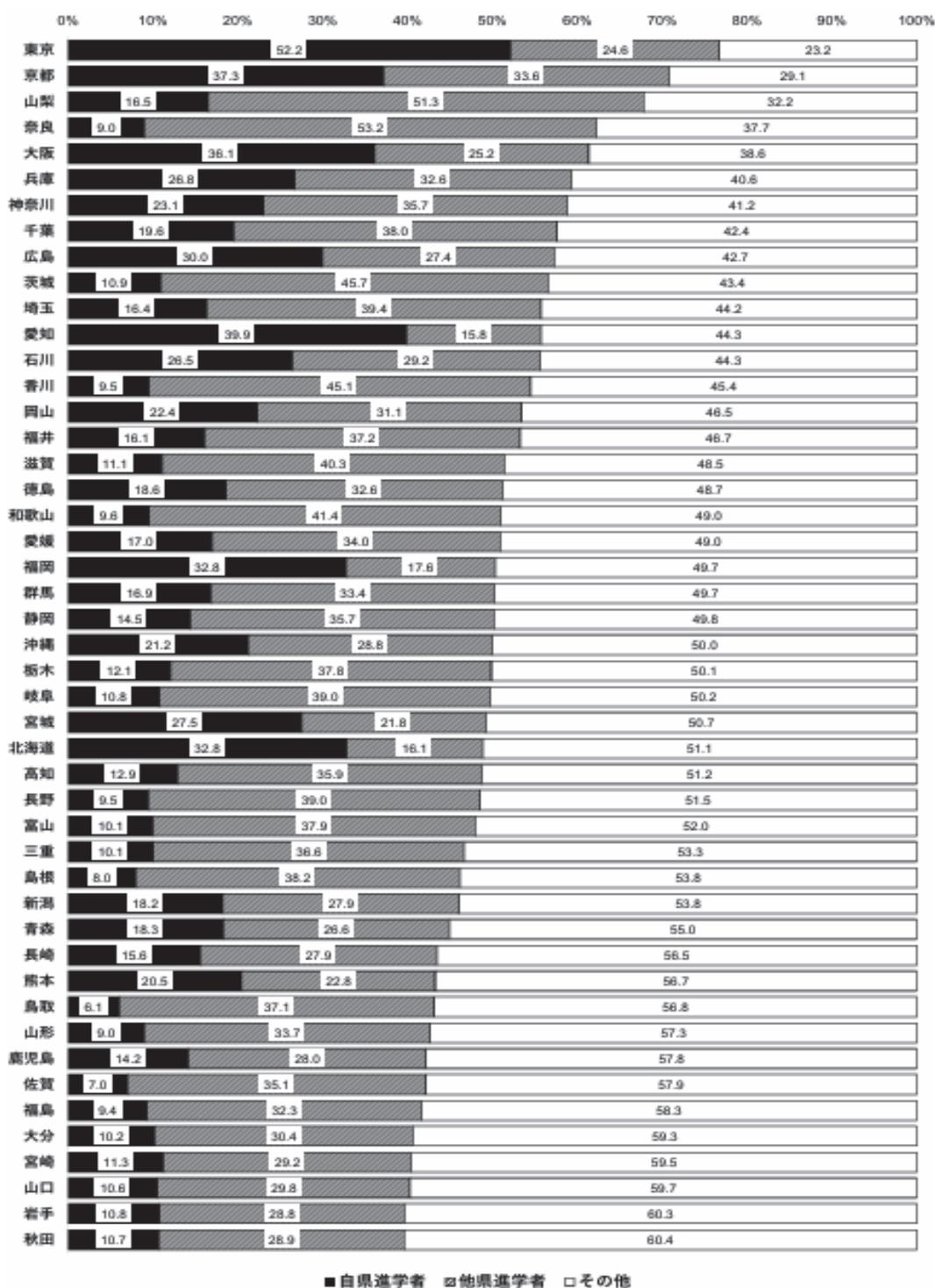


図 3 18 歳人口を分母とした自県進学者、他県進学者等の割合（全体の結果）

出所：田澤実，2023「都道府県別の自県進学率と大学進学率の可視化」『生涯学習とキャリアデザイン』21(1): 99-110, 103

田澤（2023）は、令和 4 年度の『学校基本調査』データを用いて 18 歳人口を分母とした自県進学者、他県進学者の割合を算出している（図 3）。山口県は、自県進学率が

10.6%、他県進学率が29.8%で、18歳人口を分母とした大学進学率は合計40.4%で3番目に低い。山口県は18歳人口の減少率が高く、若者が地元に残留しない傾向にあり、さらに大学進学率が低い上に高校新卒進学者は、他県の国公立大学志願者が多い県と言える。

山口県の国立大学である山口大学は、例年入学者約2,000人のうち山口県出身者は25%程度の500人を受け入れている。田澤が算出した令和4年度の山口県の大学進学者数は4,813人であり、山口県の大学進学者の約1割を受け入れていることになる。

以上の山口県の若者の状況からもわかるように、山口大学が地元の高校新卒者を入学者（自県入学者）として受け入れることは、志願者獲得の段階で厳しい状況にある。なお、山口大学の入学者は山口県、広島県、福岡県を中心に集まっており、中国地方、九州地方だけでなく全国から集まっている。

2.3 本研究の目的

山口大学の自県入学者は大学進学時に「移動しなかった者」である。移動した者と移動しなかった者とで大学進学理由はどのように異なるのだろうか。これを検証するには、山口県の新卒高校生の追跡が必要になるが、データの収集は難しい。そこで、山口大学の入学者追跡データを基に検討する。

移動した者と移動しなかった者とで大学進学理由を比較する場合、自県出身者と他県出身者を比較することになる。しかし、先行研究で李・杉浦（2012）が大学進学時の移動は家計の経済的な環境と関連し、就職時は関連しないことを明らかにしている。しかし、経済的状況を直接確認することは難しいため、大学入学時の地域間移動パターンだけではなく卒業時の移動を含めた地域間移動パターンを確認する方が山口大学入学者の進路選択の理由が明確になると考えた。本研究では、大学入学時と卒業時の地域間移動パターンによる大学進学理由を明らかにしたい。

地域間移動パターンによる大学進学理由の違いを明らかにすることにより、「移動しない者」が大学に求めているものについて示唆を得ることができるだろう。大学進学の意味決定を検討することは、地域創生のために魅力ある大学づくりにつながり、入学者の受入れの制度的見直しや有益な広報の資料となり、意義あるものとする。

3 調査データの概要

3.1 分析対象者

山口大学の入学者追跡データは山口大学の入試改善や入試広報に資するための入試研究を行うために、入試データ及び入学から卒業までの学籍状況、学業状況、入学時と卒業時の意識調査を連結したデータである。入学者追跡データは、出身高校の所在地や高校の学科等の一部の変数でデータの個数が少ない状況にある。そのため、単年度入学者のデータではなく、2年分の入学者データを分析に用いる。また、入学者追跡データ利用の取扱い規則に従って分析、公表をするため、本稿では入学年度は表記しない。また、学部別では

なく文系・理系の別等に変えて取り扱う。

本稿で分析対象とする入学者追跡データは、A年度とB年度の2年分の入学者のうち、4年制学部のみとした。また、大学進学時の地域間移動に注目するため、大学入学以前の居住地がわかる変数が高校所在地であることから、高校（高等専門学校含む）経由の入学者のみとした。つまり、高等学校卒業程度認定試験や外国の学校等を経由した入学者及び留学生等は除外した。さらに、大学入学時の移動だけでなく、卒業時の移動も含めて分析するため、正規の4年間で卒業した者で、国内に就職か進学を決定した者を対象とした。これにより、分析対象者は、2,929人となった。

3.2 調査データの概要と分析方法

入学者追跡データの変数のうち、「性別」「学部」「入試区分」「高校の学科」「大学卒業後の進路」の変数を用いる。「学部」については文系・理系¹⁾に分けて「学部系統」とした。「高校の学科」については、農業学科、商業学科、工業学科からの入学者が少ないため、これらは専門学科としてまとめた。各変数の詳細は、表1のとおりである。

また、入学時の大学進学理由を分析するためには高校の成績や家庭の状況等も含めて検討する必要があると考えられるが、家庭の状況等のデータは得ていない。そのため、本人が大学の入学時調査に回答した「大学進学理由」「山口大学選択の理由」を変数として用いる。それぞれの選択肢は、表2のとおりである。

本研究においては、入学者追跡データの「出身高校の所在地」を大学入学時の地域間移動の移動元、「卒業後の進路先」を大学卒業後の移動先として取扱う。移動元と移動先を三大都市圏²⁾とそれ以外の地方とに区分し、山口大学の学生の地域間移動の状況を把握し

表1 変数の単純集計

		度数	%
性別	男性	1659	56.6
	女性	1270	43.4
	合計	2929	100.0
学部系統	文系	1375	46.9
	理系	1554	53.1
	合計	2929	100.0
入試区分	前期日程	1893	64.6
	後期日程	480	16.4
	推薦Ⅰ	199	6.8
	推薦Ⅱ	177	6.0
	AO入試	180	6.1
	合計	2929	100.0
高校の学科	普通科	2600	88.8
	理数科	113	3.9
	専門学科・高専	104	3.6
	総合学科	68	2.3
	その他の学科	44	1.5
合計	2929	100.0	
大学卒業後の進路	就職	1997	68.2
	進学	932	31.8
	合計	2929	100.0

表2 「大学進学理由」「山口大学選択の理由」の選択肢

大学進学理由 (複数回答)	幅広い教養を身につけるため 専門的な知識を身につけるため 専門的な技術・技能を獲得するため 資格や免許を取得するため 目指している職業に就くため 学歴を得るため 将来について考える時間や契機を得るため 友人を得るため 人間的に成長するため 社会的視野や経験を広げるため 家族が勧めるから 先生が勧めるから 周囲の人みなが大学に行くから 就職しなくなかったから なんとなく その他
山口大学選択理由 (複数回答)	入学難易度が自分にあっていたから 入試科目が自分にあっていたから 選抜方法が自分にあっていたから アドミッションポリシーが自分にあっていたから 専攻したい学問分野があったから 教育内容に特色があるから 有名な教授・優秀な教授陣がいるから 国立大学だったから 総合大学だから 大学院が整備されているから とりたい資格・免許がとれるから 施設・設備がいいから 伝統や知名度があるから クラブ・サークル活動が充実しているから 就職状況が良いから 校風やキャンパスの雰囲気が自分にあっているから 入学金・授業料が安いから 奨学金や特待生制度があるから 家族が勧めるから 先生が勧めるから 滑り止めだった あまり考えないで選んだ その他

た(表3)。さらに、地域間移動パターンとしては、大学入学時の移動元と大学卒業時の移動先をもとに、山口県出身者の「地元進学・地元就職」「地元進学・地元進学」「地元進学・他県就職」「地元進学・他県進学」と、他県出身者の「他県進学・大学所在県就職」「他県進学・大学所在県進学」「他県進学・他県就職」「他県進学・他県進学」「他県進学・地元就職」「他県進学・地元進学」に区分した。データの詳細を表3に示す。

表3 山口大学入学者の地域間移動パターン

		度数	%	
移動元 (出身高校の所在地)	地方	2574	87.9	
	東京圏	51	1.7	
	名古屋圏	65	2.2	
	大阪圏	239	8.2	
	合計	2929	100.0	
移動先 (卒業後の進路先)	地方	2268	77.4	
	東京圏	457	15.6	
	名古屋圏	45	1.5	
	大阪圏	159	5.4	
	合計	2929	100.0	
移動パターン	山口出身者	地元進学・地元就職	386	13.2
		地元進学・地元進学	208	7.1
		地元進学・他県就職	175	6.0
		地元進学・他県進学	13	0.4
	他県出身者	他県進学・地元就職	565	19.3
		他県進学・地元進学	22	0.8
		他県進学・他県就職	702	24.0
		他県進学・他県進学	52	1.8
		他県進学・大学所在県就職	169	5.8
		他県進学・大学所在県進学	637	21.7
合計		2929	100.0	

※地域間移動パターンは「入学時の移動状況・卒業後の移動状況」を表す。

分析対象者の山口県出身入学者の

割合は26.7%で、そのまま大学卒業後も山口県に就職(13.2%)・進学(7.1%)で地元にとどまる者は合計20.3%である。大学卒業時に他県就職(6.0%)・進学(0.4%)は合計6.4%で、188人が他県流出している。

他県出身者は大学卒業時に169人(5.8%)が山口県に就職をしている。また、639人(21.7%)が山口県の大学院に進学をしている。地元に戻って就職(19.8%)・進学(0.8%)した者が合計587人(20.1%)で、他県から移動して山口大学に進学し、さらに卒業後に山口県以外の他県に就職(24.0%)・進学(1.8%)した者は合計25.8%である。

以上の変数を用いて、山口大学入学者の地域間移動と地域間移動別の大学進学理由について明らかにする。山口大学入学者の地域間移動については、山口県は女性の流出が高い(山口県2024)ことから、山口大学においても同じ傾向があると考えられる。そのため、性別に注目して、山口大学入学者の地域間移動状況をクロス分析によって把握する。

地域間移動別の大学進学理由については、入学者追跡データの「大学進学理由」(複数回答)及び「山口大学選択の理由」(複数回答)の項目ごとに「地域間移動パターン」とクロス集計を行い、カイ二乗検定を行った。また、統計的に独立な場合の回答割合と実際の回答割合の差に基づいて特異性を明らかにするために残差分析を行った。なお、分析は全てSPSS ver.28を用いた。

4 山口大学入学者の地域間移動の実態と進路選択行動

4.1 山口大学入学者の地域間移動

まず、山口大学の学生の移動元についてみる。山口大学には、表3で示したように分析対象者に東京圏51人、名古屋圏65人、大阪圏239人の合計355人の三大都市圏からの入学者がいる。そして、卒業時に移動先が三大都市圏の者は、東京圏457人、名古屋圏45

人、大阪圏 159 人の合計 661 人いる。卒業後の都市圏への移動は東京圏が多い。

移動元別に卒業後の移動先をみると（図 1）、全体では、移動元が三大都市圏の学生も移動先が地方の割合が東京圏 66.7%、名古屋圏 55.4%、大阪圏 56.1%と 5 割を超えている。地方国立大学への進学により、都市圏から地方への移動が生じている。

性別でみると、移動元が三大都市圏であった者が、卒業後に地方に就職・進学した者は男性が女性よりも割合が高く、東京圏 72.5%、名古屋圏 60.4%、大阪圏 62.4%である。移動元が東京圏の 22.5%、名古屋圏の 10.4%、大阪圏の 20.0%が卒業時に移動元の都市圏に戻っているが、名古屋圏、大阪圏は他の都市圏への移動が名古屋圏では 29.2%、大阪圏では 17.6%になる。

女性は、移動元が三大都市圏であった者が卒業後に地方に就職・進学する割合は東京圏 45.5%、名古屋圏 41.2%、大阪圏 41.9%と 5 割に届かず、男性よりも都市圏へ移動する。移動元が東京圏の者は、卒業時の移動先として他の都市圏への移動はない。移動元が名古屋圏は移動先としては東京圏のみに 11.8%が移動、移動元が大阪圏は東京圏へ 17.6%、名古屋圏へ 6.8%が移動している。

一方で、移動元が地方の者は移動先も地方が全体では 80.2%で、地方に就職・進学する傾向にある。移動先の都市圏としては、東京圏が 15.2%と高く、次いで大阪圏 3.7%、名古屋圏は 0.9%である。卒業時の移動先が三大都市圏の性別割合（図 1）は、東京圏、名古屋圏、大阪圏ともに女性が 5 割を超える。性別に見ると、地方に就職・進学する男性の割合は 84.1%、女性の割合は 75.4%で、女性の方が都市圏へ移動する傾向にある。女性の移動先の都市圏としては、東京圏の割合が 18.4%と高くなっている。

次に、山口大学の学生の卒業後の地域間移動パターンについて確認する（表 3）。分析対象者の山口県出身者は全体で 26.7%であるが、卒業時の移動の内訳は、地元就職 13.2%、地元進学 7.1%、他県就職 6.0%、他県進学 0.4%である。山口県出身であった者が全体で 6.4%、大学卒業時に他県に流出している。他県出身者のうち、大学所在県就職及び進学、つまり山口県に就職した者が 5.8%、進学した者が 21.7%いる。山口県出身者が大学卒業時に他県に移動した同程度の 5.8%が他県から進学してきて山口県にとどまったことになる。

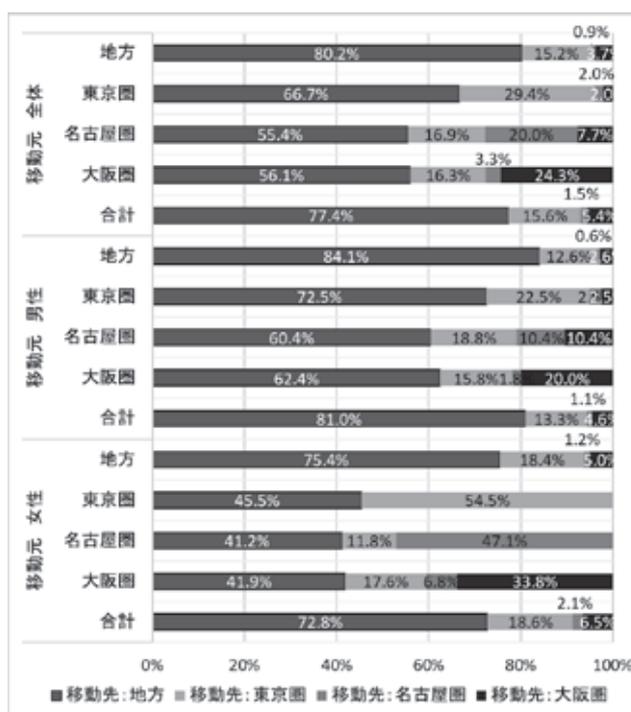


図 4 移動元別卒業後の移動先の性別比較

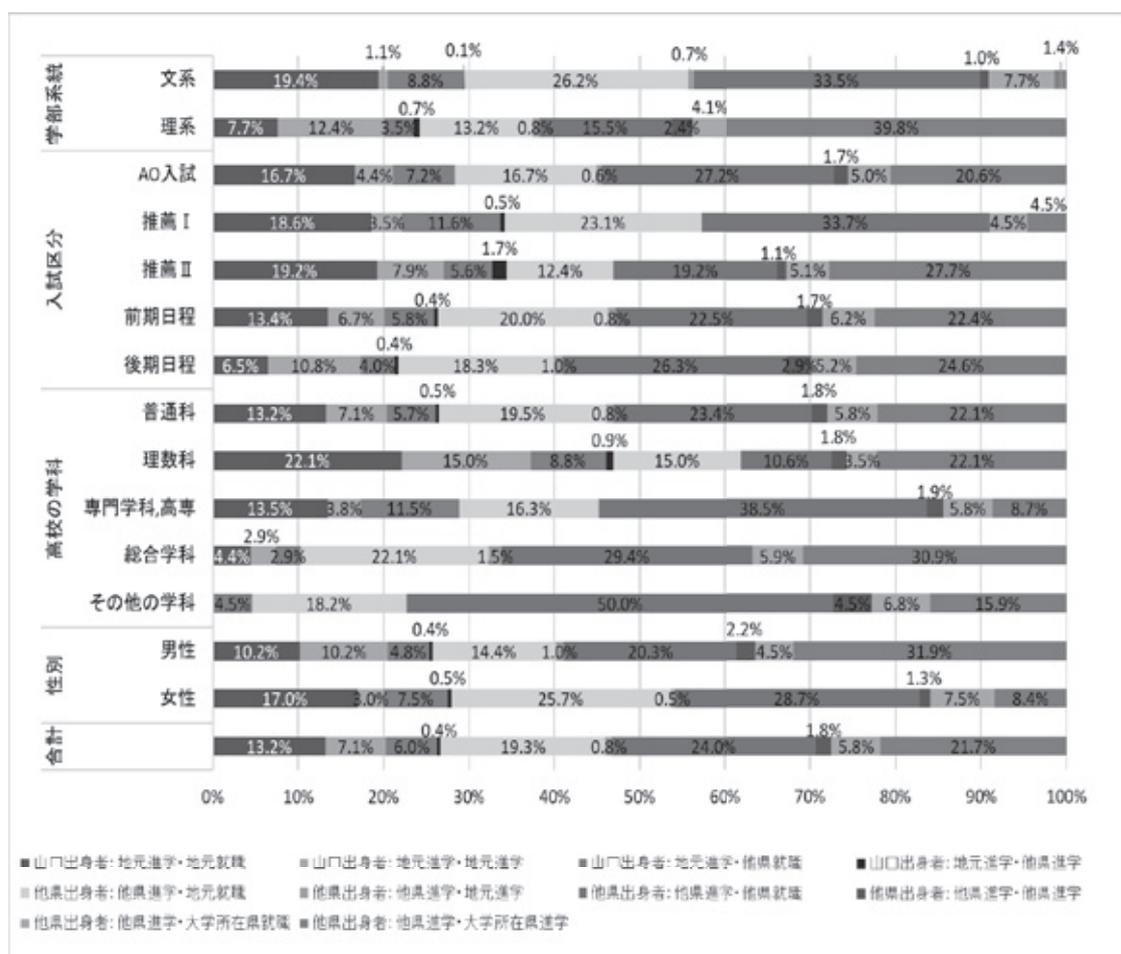


図5 山口大学の地域間移動パターンの詳細

また、他県出身者が地元に戻って就職した「他県進学・地元就職」は19.3%、進学した「他県進学・地元進学」は0.8%であった。大学卒業後の就職先は、山口県出身者、他県出身者合わせて地元を選ぶ者が3割程度ということになる。

この地域間移動パターンを学部系統、入試区分、高校の学科、性別で比較した(図2)。学部系統で見ると、山口県出身者の「地元進学・地元就職」は文系(19.4%)のほうが理系よりも高い。入試区分別には、山口県出身者の「地元進学・地元就職」の割合が高いのはAO入試、推薦Ⅰ、推薦Ⅱの特別選抜で、割合が低いのは後期日程(6.5%)である。高校の学科別では、理数科で山口県出身者の「地元進学・地元就職」(22.1%)の割合が高い。性別で見ると、山口県出身者の「地元進学・地元就職」の割合は、男性(10.2%)よりも女性(17.0%)のほうが高い。

「他県進学・大学所在県就職」は学部系統で見ると文系の割合が高く(7.7%)、性別では女性の割合が高い(7.5%)。また、理系学部が大学院に進学する傾向にあるため、「他県進学・大学所在県進学」の割合は理系(39.8%)、男性(31.9%)で高い。

4.2 地域間移動別の大学入学理由

このような地域間移動パターンの違いによって、大学選択の理由はどのように異なっているのだろうか。そこで、「大学進学理由」（複数回答）の項目ごとに「地域間移動パターン」とクロス集計を行い、カイ二乗検定を行った。また、統計的に独立した場合の回答割合と実際の回答割合の差に基づいて特異性を明らかにするために残差分析を行った。

「大学進学理由」の16項目のうち、「幅広い教養を身につけるため」「将来について考える時間や契機を得るため」「人間的に成長するため」「社会的視野や経験を広げるため」「家族が勧めるから」「先生が勧めるから」「就職したくなかったから」「なんとなく」「その他」の9項目は地域間移動パターンとのカイ二乗検定において有意性は認められなかった。カイ二乗検定において有意性が認められた7項目について、カイ二乗検定及び残差分析の結果を表4に示す。

残差分析より、「専門的な知識を身に付けるため」「専門的な技術・技能を獲得するため」を選択した者は、卒業後に大学院に進学した「地元進学・地元進学」「地元進学・他県進学」「他県進学・他県進学」「他県進学・大学所在県進学」の調整済み残差は正の値であった。「資格や免許を取得するため」「目指している職業に就くため」を選択した者

表4 大学進学理由の地域間移動パターン別カイ二乗検定及び残差分析

	専門的な知識を身に付けるため $\chi^2=54.605$ df=9 p=0.000			専門的な技術・技能を獲得するため $\chi^2=97.555$ df=9 p=0.000			資格や免許を取得するため $\chi^2=91.371$ df=9 p=0.000			目指している職業に就くため $\chi^2=29.654$ df=9 p=0.001			学歴を得るため $\chi^2=22.367$ df=9 p=0.008			友人を得るため $\chi^2=18.064$ df=9 p=0.034			周囲のみなさんが大学に行くから $\chi^2=23.763$ df=9 p=0.005		
	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計
地元進学・地元就職 (n=386)	観測度数 401.0	326.0	685	251.0	373.9	685	262.0	423.0	685	287.0	398.0	685	338.0	347.0	685	129.0	556.0	685	108.0	577.0	685
	期待度数 311.1	284.0	---	311.1	373.9	---	315.9	369.1	---	319.1	365.9	---	311.8	373.2	---	131.5	553.5	---	83.8	601.2	---
	調整済み残差 -3.7	3.7	---	-5.3	5.3	---	-4.8	4.8	---	-2.8	2.8	---	2.3	-2.3	---	-0.3	0.3	---	3.2	-3.2	---
地元進学・地元進学 (n=208)	観測度数 29.9	14.1	51	30.0	21.0	51	21.0	30.0	51	24.0	27.0	51	22.0	29.0	51	12.0	39.0	51	6.0	45.0	51
	期待度数 23.2	21.1	---	23.2	27.8	---	23.5	27.5	---	23.8	27.2	---	23.2	27.8	---	9.8	41.2	---	6.2	44.8	---
	調整済み残差 2.1	-2.1	---	1.9	-1.9	---	-0.7	0.7	---	0.1	-0.1	---	-0.3	0.3	---	0.8	-0.8	---	-0.1	0.1	---
地元進学・他県就職 (n=175)	観測度数 95.4	67.6	163	72.0	89.0	163	102.0	61.0	163	91.0	72.0	163	68.0	95.0	163	37.0	126.0	163	15.0	148.0	163
	期待度数 74.0	67.6	---	74.0	89.0	---	75.2	87.8	---	75.9	87.1	---	74.2	88.8	---	31.3	131.7	---	19.9	143.1	---
	調整済み残差 -0.6	0.6	---	-0.3	0.3	---	4.3	-4.3	---	2.4	-2.4	---	-1.0	1.0	---	1.2	-1.2	---	-1.2	1.2	---
地元進学・他県進学 (n=13)	観測度数 361.7	256.3	618	280.6	337.4	618	246.0	372.0	618	271.0	347.0	618	304.0	314.0	618	111.0	507.0	618	88.0	530.0	618
	期待度数 280.6	256.3	---	280.6	337.4	---	285.0	333.0	---	287.9	330.1	---	281.3	336.7	---	118.7	499.3	---	75.6	542.4	---
	調整済み残差 6.1	-6.1	---	8.3	-8.3	---	-3.6	3.6	---	-1.5	1.5	---	2.1	-2.1	---	-0.9	0.9	---	1.7	-1.7	---
他県進学・地元就職 (n=565)	観測度数 313.7	222.3	536	243.4	292.6	536	247.2	288.8	536	249.7	286.3	536	244.0	292.0	536	102.9	433.1	536	65.6	470.4	536
	期待度数 243.4	222.3	---	243.4	292.6	---	247.2	288.8	---	249.7	286.3	---	244.0	292.0	---	102.9	433.1	---	65.6	470.4	---
	調整済み残差 -1.8	1.8	---	-2.9	2.9	---	3.9	-3.9	---	2.0	-2.0	---	-2.6	2.6	---	1.8	-1.8	---	-0.2	0.2	---
他県進学・地元進学 (n=22)	観測度数 10.1	11.0	21	10.1	11.0	21	11.0	10.1	21	14.0	7.0	21	14.0	7.0	21	1.0	20.0	21	2.0	19.0	21
	期待度数 9.5	8.7	---	9.5	11.5	---	9.7	11.3	---	9.8	11.2	---	9.6	11.4	---	4.0	17.0	---	2.6	18.4	---
	調整済み残差 -1.0	1.0	---	0.2	-0.2	---	0.6	-0.6	---	1.9	-1.9	---	-1.1	1.1	---	-1.7	1.7	---	-0.4	0.4	---
他県進学・他県就職 (n=702)	観測度数 98.9	70.1	169	76.7	92.3	169	77.9	91.1	169	78.7	90.3	169	76.9	92.1	169	32.5	136.5	169	20.7	148.3	169
	期待度数 76.7	70.1	---	76.7	92.3	---	77.9	91.1	---	78.7	90.3	---	76.9	92.1	---	32.5	136.5	---	20.7	148.3	---
	調整済み残差 -0.8	0.8	---	-1.2	1.2	---	-1.3	1.3	---	0.4	-0.4	---	-0.3	0.3	---	-1.1	1.1	---	-1.9	1.9	---
他県進学・他県進学 (n=52)	観測度数 7.0	5.0	12	5.4	6.6	12	5.5	6.5	12	5.6	6.4	12	5.5	6.5	12	2.3	9.7	12	1.5	10.5	12
	期待度数 5.4	5.0	---	5.4	6.6	---	5.5	6.5	---	5.6	6.4	---	5.5	6.5	---	2.3	9.7	---	1.5	10.5	---
	調整済み残差 0.6	-0.6	---	0.3	-0.3	---	0.9	-0.9	---	-0.3	0.3	---	0.9	-0.9	---	2.7	-2.7	---	-0.4	0.4	---
他県進学・大学所在県就職 (n=169)	観測度数 210.1	148.9	359	163.0	196.0	359	165.6	193.4	359	167.2	191.8	359	163.4	195.6	359	68.9	290.1	359	43.9	315.1	359
	期待度数 163.0	148.9	---	163.0	196.0	---	165.6	193.4	---	167.2	191.8	---	163.4	195.6	---	68.9	290.1	---	43.9	315.1	---
	調整済み残差 -1.7	1.7	---	-1.9	1.9	---	5.5	-5.5	---	2.5	-2.5	---	-2.3	2.3	---	-1.3	1.3	---	-1.7	1.7	---
他県進学・大学所在県進学 (n=637)	観測度数 115.9	82.1	198	89.9	108.1	198	91.3	106.7	198	92.2	105.8	198	90.1	107.9	198	38.0	160.0	198	24.2	173.8	198
	期待度数 89.9	82.1	---	89.9	108.1	---	91.3	106.7	---	92.2	105.8	---	90.1	107.9	---	38.0	160.0	---	24.2	173.8	---
	調整済み残差 1.8	-1.8	---	2.8	-2.8	---	-2.3	2.3	---	-2.1	2.1	---	1.3	-1.3	---	0.2	-0.2	---	-2.5	2.5	---
合計 (n=2,929)	1,646	1,166	2,812	1,277	1,535	2,812	1,297	1,515	2,812	1,310	1,502	2,812	1,280	1,532	2,812	540	2,272	2,812	344	2,468	2,812

は、「他県進学・大学所在県就職」の調整済み残差の値が最も大きくなっている。「学歴を得るため」を選択した者は、「地元進学・地元就職」「地元進学・他県進学」の調整済み残差の値が高い。「友人を得るため」を選択した者は、「他県進学・他県進学」の調整済み残差の値が高い。「周囲の人みなが大学に行くから」を選択した者は、「地元進学・地元就職」「地元進学・他県進学」の調整済み残差が正の値であった。

注目したいのは、「専門的な技術・技能を獲得するため」と「資格や免許を取得するため」の結果である。「専門的な技術・技能を獲得するため」は、「地元進学・他県進学」の調整済み残差が 8.3 で、山口県出身者が地元で「専門的な技術・技能の獲得」という目的を持って勉学に励めば、大学卒業後に更に次なるステージを求めて他県に進学し、流出に繋がっていると考えられる。

「資格や免許を取得するため」は、「他県進学・大学所在県就職」の調整済み残差が 5.5 であり、山口大学における資格や免許の取得が山口県に就職、定住に繋がる流れがあると言えるだろう。一方で、「地元進学・他県就職」の調整済み残差が 4.3 で、山口県出身者の大学卒業後の流出にも繋がっているが、資格や免許の取得が可能かどうかは若者の移動において重要なポイントとなっていることが示唆された。

つづいて、「山口大学選択の理由」（複数回答）の項目ごとに「地域間移動パターン」とクロス集計を行い、カイ二乗検定を行った。また、「大学進学理由」と同様に統計的に独立した場合の回答割合と実際の回答割合の差に基づいて特異性を明らかにするために残差分析を行った。「山口大学選択の理由」の 23 項目のうち、「入学難易度が自分にあっていたから」「アドミッションポリシーが自分にあっていたから」「有名な教授・優秀な教授陣がいるから」「国立大学だったから」「総合大学だから」「伝統や知名度があるから」「クラブ・サークル活動が充実しているから」「入学金・授業料が安いから」「奨学金や特待生制度があるから」「あまり考えないで選んだ」「その他」の 11 項目は地域間移動パターンとのカイ二乗検定において有意性は認められなかった。そこで、カイ二乗検定において有意性が認められた 12 項目について、カイ二乗検定及び残差分析の結果を表 5 に示す。

残差分析より、「入試科目が自分にあっていたから」「選抜方法が自分にあっていたから」を選択した者は、「他県進学・大学所在県進学」で調整済み残差の値が大きい。「専攻したい学問分野があったから」は、大学入学時が他県進学の者にのみ調整済み残差の値が正となっており、山口県出身の地元進学者は負の値となっている。「教育内容に特色があるから」を選択した者は、「他県進学・他県就職」「他県進学・他県進学」で調整済み残差の値が大きい。「大学院が整備されているから」「施設・設備がいいから」を選択した者は、「地元進学・地元進学」で調整済み残差の値が大きい。「とりたい資格・免許がとれるから」を選択した者は、「地元進学・地元就職」「他県進学・地元就職」「他県進学・大学所在県就職」で調整済み残差の値が大きい。「就職状況が良いから」を選択した者は、大学入学時に「地元進学」である山口県出身者と、大学卒業後に山口県に就職・進

表5 山口大学を受験した理由の地域間移動パターン別カイニ乗検定及び残差分析

	入試科目が 自分にあっていたから $\chi^2=89.530$ df=9 p=0.000			選抜方法が 自分にあっていたから $\chi^2=35.493$ df=9 p=0.000			専攻したい学問分野が あったから $\chi^2=24.460$ df=9 p=0.004			教育内容に特色が あるから $\chi^2=36.132$ df=9 p=0.000			大学院が 整備されているから $\chi^2=70.741$ df=9 p=0.000			とりたい資格・免許が とれるから $\chi^2=149.539$ df=9 p=0.000		
	観測度数	期待度数	調整済み残差	観測度数	期待度数	調整済み残差	観測度数	期待度数	調整済み残差	観測度数	期待度数	調整済み残差	観測度数	期待度数	調整済み残差	観測度数	期待度数	調整済み残差
	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計
地元進学・地元就職 (n=386)	107	252	359	70	289	359	137	222	359	47	312	359	5	354	359	143	216	359
	158.6	200.4	---	79.2	279.8	---	150.6	208.4	---	37.2	321.8	---	10.9	348.1	---	94.6	264.4	---
	-5.9	5.9	---	-1.2	1.2	---	-1.6	1.6	---	1.8	-1.8	---	-1.9	1.9	---	6.2	-6.2	---
地元進学・地元進学 (n=208)	91	107	198	26	172	198	60	138	198	9	189	198	21	177	198	32	166	198
	87.5	110.5	---	43.7	154.3	---	83.1	114.9	---	20.5	177.5	---	6.0	192.0	---	52.2	145.8	---
	0.5	-0.5	---	-3.1	3.1	---	-3.4	3.4	---	-2.8	2.8	---	6.5	-6.5	---	-3.4	3.4	---
地元進学・他県就職 (n=175)	48	121	169	28	141	169	66	103	169	17	152	169	2	167	169	40	129	169
	74.6	94.4	---	37.3	131.7	---	70.9	98.1	---	17.5	151.5	---	5.1	163.9	---	44.5	124.5	---
	-4.3	4.3	---	-1.8	1.8	---	-0.8	0.8	---	-0.1	0.1	---	-1.4	1.4	---	-0.8	0.8	---
地元進学・他県進学 (n=13)	5	7	12	4	8	12	3	9	12	2	10	12	1	11	12	4	8	12
	5.3	6.7	---	2.6	9.4	---	5.0	7.0	---	1.2	10.8	---	0.4	11.6	---	3.2	8.8	---
	-0.2	0.2	---	0.9	-0.9	---	-1.2	1.2	---	0.7	-0.7	---	1.1	-1.1	---	0.6	-0.6	---
他県進学・地元就職 (n=565)	240	296	536	104	432	536	234	302	536	53	483	536	7	529	536	189	347	536
	236.7	299.3	---	118.2	417.8	---	224.9	311.1	---	55.5	480.5	---	16.2	519.8	---	141.2	394.8	---
	0.3	-0.3	---	-1.6	1.6	---	0.9	-0.9	---	-0.4	0.4	---	-2.6	2.6	---	5.2	-5.2	---
他県進学・地元進学 (n=22)	8	13	21	5	16	21	5	16	21	0	21	21	0	21	21	8	13	21
	9.3	11.7	---	4.6	16.4	---	8.8	12.2	---	2.2	18.8	---	0.6	20.4	---	5.5	15.5	---
	-0.6	0.6	---	0.2	-0.2	---	-1.7	1.7	---	-1.6	1.6	---	-0.8	0.8	---	1.2	-1.2	---
他県進学・他県就職 (n=702)	288	397	685	153	532	685	309	376	685	90	595	685	8	677	685	147	538	685
	302.5	382.5	---	151.0	534.0	---	287.4	397.6	---	70.9	614.1	---	20.7	664.3	---	180.5	504.5	---
	-1.3	1.3	---	0.2	-0.2	---	1.9	-1.9	---	2.8	-2.8	---	-3.3	3.3	---	-3.3	3.3	---
他県進学・他県進学 (n=52)	29	22	51	14	37	51	26	25	51	10	41	51	3	48	51	12	39	51
	22.5	28.5	---	11.2	39.8	---	21.4	29.6	---	5.3	45.7	---	1.5	49.5	---	13.4	37.6	---
	1.8	-1.8	---	0.9	-0.9	---	1.3	-1.3	---	2.2	-2.2	---	1.2	-1.2	---	-0.5	0.5	---
他県進学・ 大学所在就職 (n=169)	79	84	163	36	127	163	75	88	163	23	140	163	6	157	163	74	89	163
	72.0	91.0	---	35.9	127.1	---	68.4	94.6	---	16.9	146.1	---	4.9	158.1	---	43.0	120.0	---
	1.1	-1.1	---	0.0	0.0	---	1.1	-1.1	---	1.6	-1.6	---	0.5	-0.5	---	5.7	-5.7	---
他県進学・ 大学所在進学 (n=637)	347	271	618	180	438	618	265	353	618	40	578	618	32	586	618	92	526	618
	273.0	345.0	---	136.3	481.7	---	259.3	358.7	---	64.0	554.0	---	18.7	599.3	---	162.9	455.1	---
	6.8	-6.8	---	4.8	-4.8	---	0.5	-0.5	---	-3.6	3.6	---	3.5	-3.5	---	-7.3	7.3	---
合計 (n=2,929)	1,242	1,570	2,812	620	2,192	2,812	1,180	1,632	2,812	291	2,521	2,812	85	2,727	2,812	741	2,071	2,812

	施設・設備がいいから $\chi^2=33.990$ df=9 p=0.000			就職状況が良いから $\chi^2=22.202$ df=9 p=0.008			校風やキャンパスの雰囲気 自分にあっているから $\chi^2=22.097$ df=9 p=0.009			家族が勤めるから $\chi^2=49.619$ df=9 p=0.000			先生が勤めるから $\chi^2=33.496$ df=9 p=0.000			滑り止めた $\chi^2=35.994$ df=9 p=0.000		
	観測度数	期待度数	調整済み残差	観測度数	期待度数	調整済み残差	観測度数	期待度数	調整済み残差	観測度数	期待度数	調整済み残差	観測度数	期待度数	調整済み残差	観測度数	期待度数	調整済み残差
	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計	選択有	選択無	計
地元進学・地元就職 (n=386)	43	316	359	41	318	359	43	316	359	43	316	359	23	336	359	17	342	359
	37.8	321.2	---	28.2	330.8	---	30.3	328.7	---	19.2	339.8	---	33.8	325.2	---	33.4	325.6	---
	1.0	-1.0	---	2.7	-2.7	---	2.6	-2.6	---	6.0	-6.0	---	-2.1	2.1	---	-3.2	3.2	---
地元進学・地元進学 (n=208)	39	159	198	17	181	198	10	188	198	12	186	198	5	193	198	16	182	198
	20.8	177.2	---	15.6	182.4	---	16.7	181.3	---	10.6	187.4	---	18.7	179.3	---	18.4	179.6	---
	4.4	-4.4	---	0.4	-0.4	---	-1.8	1.8	---	0.5	-0.5	---	-3.4	3.4	---	-0.6	0.6	---
地元進学・他県就職 (n=175)	11	158	169	16	153	169	9	160	169	15	154	169	12	157	169	12	157	169
	17.8	151.2	---	13.3	155.7	---	14.2	154.8	---	9.0	160.0	---	15.9	153.1	---	15.7	153.3	---
	-1.8	1.8	---	0.8	-0.8	---	-1.5	1.5	---	2.1	-2.1	---	-1.1	1.1	---	-1.0	1.0	---
地元進学・他県進学 (n=13)	2	10	12	1	11	12	0	12	12	1	11	12	0	12	12	0	12	12
	1.3	10.7	---	0.9	11.1	---	1.0	11.0	---	0.6	11.4	---	1.1	10.9	---	1.1	10.9	---
	0.7	-0.7	---	0.1	-0.1	---	-1.1	1.1	---	0.5	-0.5	---	-1.1	1.1	---	-1.1	1.1	---
他県進学・地元就職 (n=565)	53	483	536	32	504	536	54	482	536	17	519	536	58	478	536	51	485	536
	56.4	479.6	---	42.1	493.9	---	45.2	490.8	---	28.6	507.4	---	50.5	485.5	---	49.9	486.1	---
	-0.5	0.5	---	-1.8	1.8	---	1.5	-1.5	---	-2.5	2.5	---	1.2	-1.2	---	0.2	-0.2	---
他県進学・地元進学 (n=22)	0	21	21	1	20	21	1	20	21	1	20	21	2	19	21	5	16	21
	2.2	18.8	---	1.7	19.3	---	1.8	19.2	---	1.1	19.9	---	2.0	19.0	---	2.0	19.0	---
	-1.6	1.6	---	-0.5	0.5	---	-0.6	0.6	---	-0.1	0.1	---	0.0	0.0	---	2.3	-2.3	---
他県進学・他県就職 (n=702)	56	629	685	39	646	685	60	625	685	23	662	685	93	592	685	68	617	685
	72.1	612.9	---	53.8	631.2	---	57.7	627.3	---	36.5	648.5	---	64.6	620.4	---	63.8	621.2	---
	-2.3	2.3	---	-2.4	2.4	---	0.4	-0.4	---	-2.6	2.6	---	4.3	-4.3	---	0.6	-0.6	---
他県進学・他県進学 (n=52)	9	42	51	0	51	51	5	46	51	0	51	51	3	48	51	12	39	51
	5.4	45.6	---	4.0	47.0	---	4.3	46.7	---	2.7	48.3	---	4.8	46.2	---	4.8	46.2	---
	1.7	-1.7	---	-2.1	2.1	---	0.4	-0.4	---	-1.7	1.7	---	-0.9	0.9	---	3.5	-3.5	---
他県進学・ 大学所在就職 (n=169)	23	140	163	13	150	163	19	144	163	7	156	163	13	150	163	9	154	163
	17.2	145.8	---	12.8	150.2	---	13.7	149.3	---	8.7	154.3	---	15.4	147.6	---	15.2	147.8	---
	1.5	-1.5	---	0.1	-0.1	---	1.5	-1.5	---	-0.6	0.6	---	-0.7	0.7	---	-1.7	1.7	---
他県進学・ 大学所在進学 (n=637)	60	558	618	61	557	618	36	582	618	31	587	618	56	562	618	72	546	618
	65.1	552.9	---	48.6	569.4	---	52.1	565.9	---	33.0	585.0	---	58.2	559.8	---	57.6	560.4	---
	-0.7	0.7	---	2.1	-2.1	---	-2.6	2.6	---	-0.4	0.4	---	-0.3	0.3	---	2.3	-2.3	---
合計 (n=2,929)	296	2,516	2,812	221	2,591	2,812	237	2,575	2,812	150	2,662	2,812	265	2,547	2,812	262	2,550	2,812

学した「他県進学・大学所在県就職」「他県進学・大学所在県進学」で調整済み残差が正の値になっている。「校風やキャンパスの雰囲気は自分にあっているから」を選択した者は、「地元進学・地元就職」の調整済み残差の値が大きい。「家族が勧めるから」を選択した者は、大学入学時の山口県出身者である「地元進学」の調整済み残差が正であり、他県出身者である「他県進学」は調整済み残差が負となっている。一方で、「先生が勧めるから」を選択した者は、山口県出身者である「地元進学」の調整済み残差が負であり、他県出身者である「他県進学」は調整済み残差が正となっている。「滑り止めだった」を選択した者は、他県出身者である「他県進学」は調整済み残差が正であり、山口県出身者である「地元進学」の調整済み残差が負となっている。

注目したいのは、「とりたい資格・免許がとれるから」「大学院が整備されているから」「家族が勧めるから」である。「とりたい資格・免許がとれるから」は、「地元進学・地元就職」の調整済み残差 6.2、「他県進学・大学所在県就職」の調整済み残差 5.7 で高い値を示しており、山口県への若者の就職、定住の流れに、資格や免許の取得は重要な山口大学選択理由になっていると言える。

「大学院が整備されているから」は「地元進学・地元進学」の調整済み残差が 6.5 で高い値を示しており、山口県出身の若者が専門性を身に付けていく上で地域間移動をする必要のない環境として大学院を充実させておくことは重要と言えるだろう。

また、「家族が勧めるから」は「地元進学・地元就職」の調整済み残差が 6.0 で高い値を示している。山口大学への進学が家族の影響を受けていること、そして、卒業後も山口に留まる流れに繋がっていることが示唆された。

5 まとめ

本稿の入学者の地域間移動パターンと大学進学理由の分析結果から、山口県の高校生に地元国立大学をアピールしていくには、可能な資格・免許の情報提供や山口大学の大学院の整備状況の情報提供とともに資格や免許を取得して山口大学大学院に進学、あるいは山口県に就職するモデルを示すことが重要と言える。また、山口県の高校生が地元国立大学を目指す流れをつくるには、家族の勧めが重要であると考えられ、大学の入試広報を親に働きかける等、さまざまな手法を検討することが可能である。しかし、この点は慎重に検討しなければならないと考える。

家族の勧めが意味するものは何なのか、大学進学や大学卒業時に地域間移動をしないことが不利益に繋がっていないだろうか、家族の勧めと本人の意思をどのように調整するのだろうか等、移動しない学生の状況を把握することが必要であろう。そのためには、山口大学進学後の満足度、学業成績との関連等を分析する必要がある。今後、本稿で得られた示唆をもとに、「地元進学・地元就職」の移動しない学生がどのような学生なのか、より具体的に描き出し、地域創生のための入学者の受入れの制度的見直しを検討していく。

[注]

- 1) 文系は人文学部・教育学部・経済学部・国際総合科学部、理系は理学部・医学部保健学科・工学部・農学部と区分した。
- 2) 三大都市圏は、東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）、名古屋圏（岐阜県、愛知県、三重県）、大阪圏（京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）とした。

[文献]

- 李永俊，2012，「地域間移動から若者が得る経済的な利益」石黒格・李永俊・杉浦裕晃・山口恵子『「東京」に出る若者たち—社会・社会関係・地域間格差』ミネルヴァ書房，47-70.
- 李永俊・杉浦裕晃，2012，「地域間移動と格差問題」石黒格・李永俊・杉浦裕晃・山口恵子，『「東京」に出る若者たち—社会・社会関係・地域間格差』ミネルヴァ書房，71-87.
- 内閣官房・内閣府，2014，「まち・ひと・しごと創生総合戦略」，内閣官房・内閣府総合サイト地方創生（2024年12月22日取得，<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/pdf/20141227siryou5.pdf>）.
- 内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局・内閣府地方創生推進事務局，2024，「地方創生10年の取組と今後の推進方向」内閣官房・内閣府総合サイト地方創生（2024年12月22日取得，https://www.chisou.go.jp/sousei/meeting/chisoudecade/pdf/chisoudecade_honnbunn.pdf）.
- 宮下伊吉・藤田達生・岩崎恭彦，2021，「地方創生と大学入試制度」『三重大学高等教育研究』28：75-82.
- 文部科学省，2021，「魅力ある地方大学の実現へ向けて（仮称）（素案）参考資料集」：20，（2025年1月8日取得，<https://www.mext.go.jp/content/000141270.pdf>）.
- 田澤実，2023，「都道府県別の自県進学率と大学進学率の可視化」『生涯学習とキャリアデザイン』21(1): 99-110.
- リクルート進学総研，2024，「マーケットリポート2023全国版 18歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向」（2024年12月23日取得，https://souken.shingakunet.com/research/pdf/2023_souken_report/2023_souken_report.pdf）.
- 労働政策研究・研修機構，2015，『若者の地域移動—長期的動向とマッチングの変化—』労働政策研究・研修機構（JILPT）資料シリーズ162.
- 清水昌人・坂東里江子，2013，「資料 大学進学にともなう地域間移動の動向」『人口問題研究』69(3): 62-73.
- 内田照久・鈴木規夫，2012，「大学入試センター試験における高校新卒志願者の地域別大学出願状況の年次推移」『大学入試研究ジャーナル』22: 105-118.
- 内田照久・鈴木規夫，2013，「大学入試センター試験の中核受験者層と私立大学への出願状況」『大学入試研究ジャーナル』23: 85-93.
- 山口大学アドミッションセンター，2010-2024，「山口大学入試 DATA BOOK」平成22年度受験者用～

令和7年度受験者用.

山口県, 2024, 第3期山口県まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】(2024年12月22日取得,

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/175136.pdf>).

山口県総合企画部統計分析課, 2024, 「令和6年度学校基本調査の確定値(山口県分)について」

(2024年12月22日取得, <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/198725.pdf>).

所属: 山口大学 教育・学生支援機構

E-mail: hiroko.h@yamaguchi-u.ac.jp